

2016年3月期 決算説明会資料

～中計「New Challenge2016」の最終年度の見通しについて～

2016年6月2日
稲畑産業株式会社

代表取締役社長
稲畑 勝太郎

稲畑産業とは、



稲畑染料店(京都・西陣)

1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大

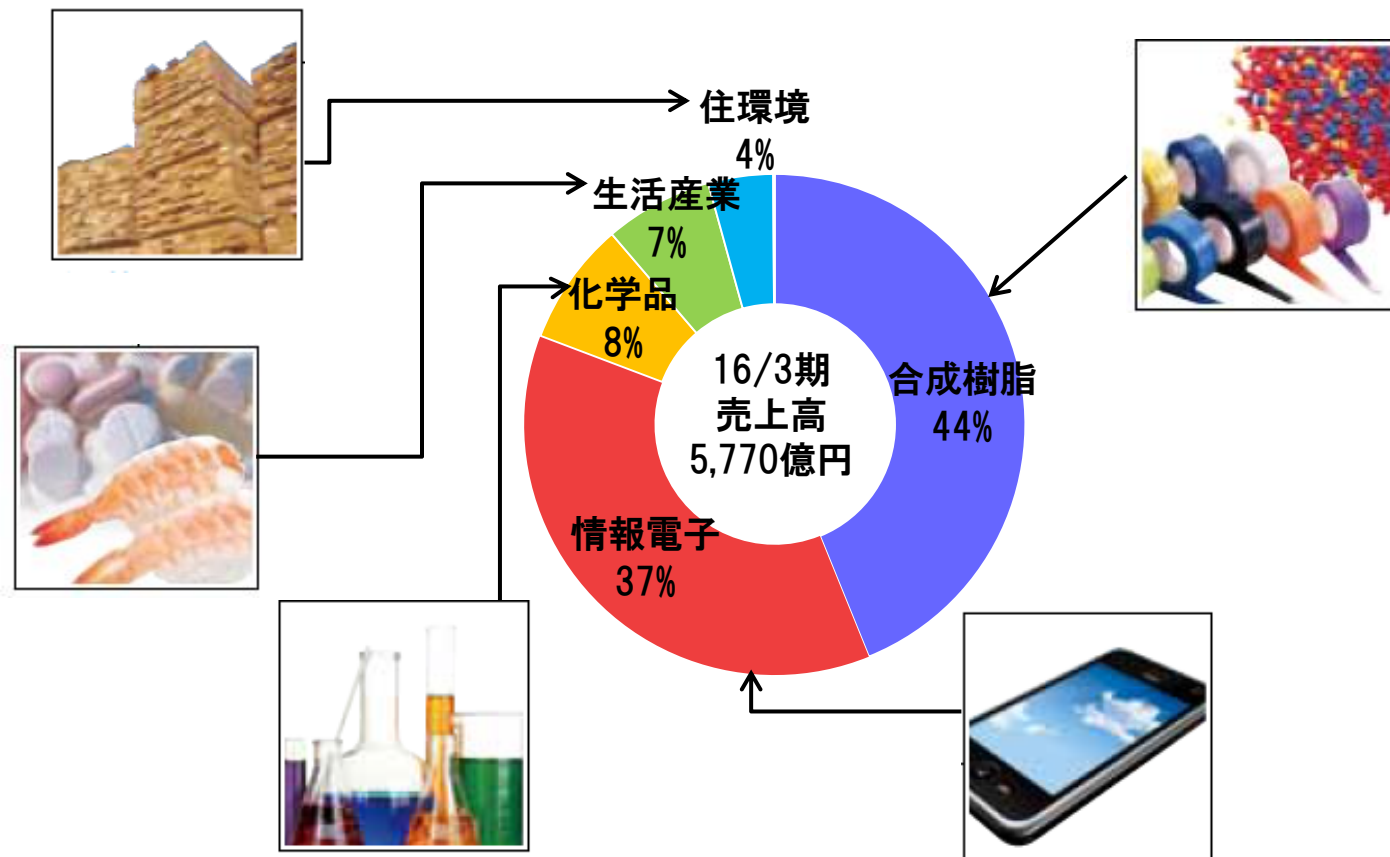
2. グローバルに複合展開する商社

世界18カ国に約60拠点を展開
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



3. 5つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂、住環境の5つの分野で事業を展開



中期経営計画目標(2017年3月期)

売上高	: 6,200億円
営業利益	: 125億円
経常利益	: 135億円
純利益	: 100億円
ROE	: 8.2%
ネットD/Eレシオ	: 0.45倍以下(※)
自己資本比率	: 38.0%
想定為替レート	: 1USD=100円

(※) ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

1. 海外事業の更なる拡大と深化

- 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化
- アジア以外の新興国への取り組みの拡大
- 非日系企業との取引の拡大

2. 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- 自動車分野、環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野への注力
- 新規取引先・新規商材を拡大し、収益の多様化を着実に進める

3. グローバル経営のインフラ整備・拡充

- ・ グローバル経営を支えるリスク管理・経営管理手法の整備
- ・ 情報システム、業務プロセスのグローバルな標準化の推進

4. 将来の成長に向けた投資の実施

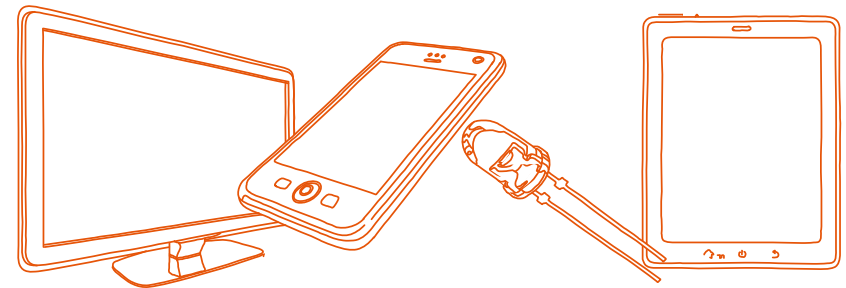
- ・ 今後3年間の投資枠を100億円に設定

5. 資金効率・資産効率の更なる追求と財務体質の強化

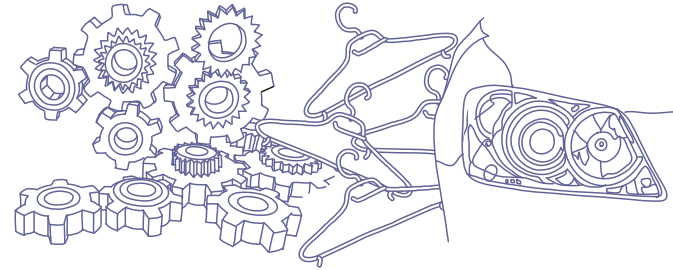
6. グローバル人材の継続的な育成

◆ 液晶パネルのマーケット

- ・TV生産台数は横ばい、大型化による面積成長続く
スマホは成長率の鈍化はあるが、生産台数は増加
- ・中国パネルメーカーの生産能力増強により、
パネルの供給過剰が継続
- ・価格面では弱含みを想定



◆ 合成樹脂のマーケット(国内)



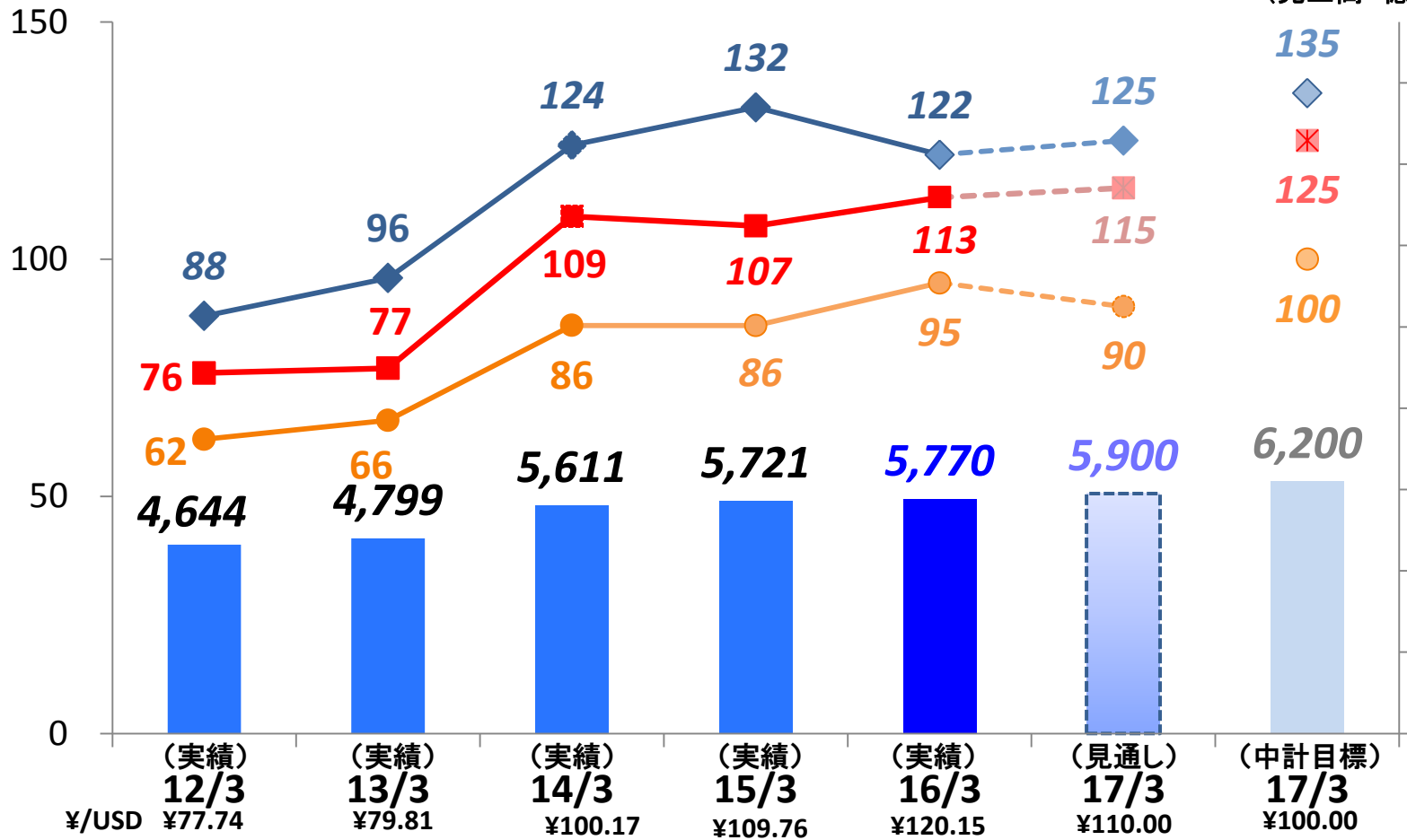
- ・ナフサ価格の下落による、樹脂単価の下落
(ナフサ価格 2015年4～6月48,800円⇒2016年1～3月34,300円/kl)
- ・ナフサ価格に連動して樹脂価格は弱含みの展開
- ・自動車生産台数は前年比増の見込み、建材は下期回復、食品容器は微増 ⇒ 樹脂需要増へ

(億円)	2017年3月期				
	16/3期 実績	17/3期 見通し (A)	中期計画 最終年度 目標(B)	目標との 差異 (A)-(B)	(A)/(B) %
売上高	5,770	5,900	6,200	▲300	95%
営業利益	113	115	125	▲10	92%
経常利益	122	125	135	▲10	93%
親会社株主に帰属する 当期純利益	95	90	100	▲10	90%
ROE	7.5%	—	8.2%	—	—
ネットD/Eレシオ	0.37	—	0.45	—	—
自己資本比率	41.3%	—	38.0%	—	—
為替レート(米ドル)	120.15円	110.00円	100.00円	—	—

「New Challenge2016」最終年度 見通し

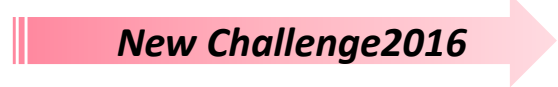


(利益 億円)



(売上高 億円)

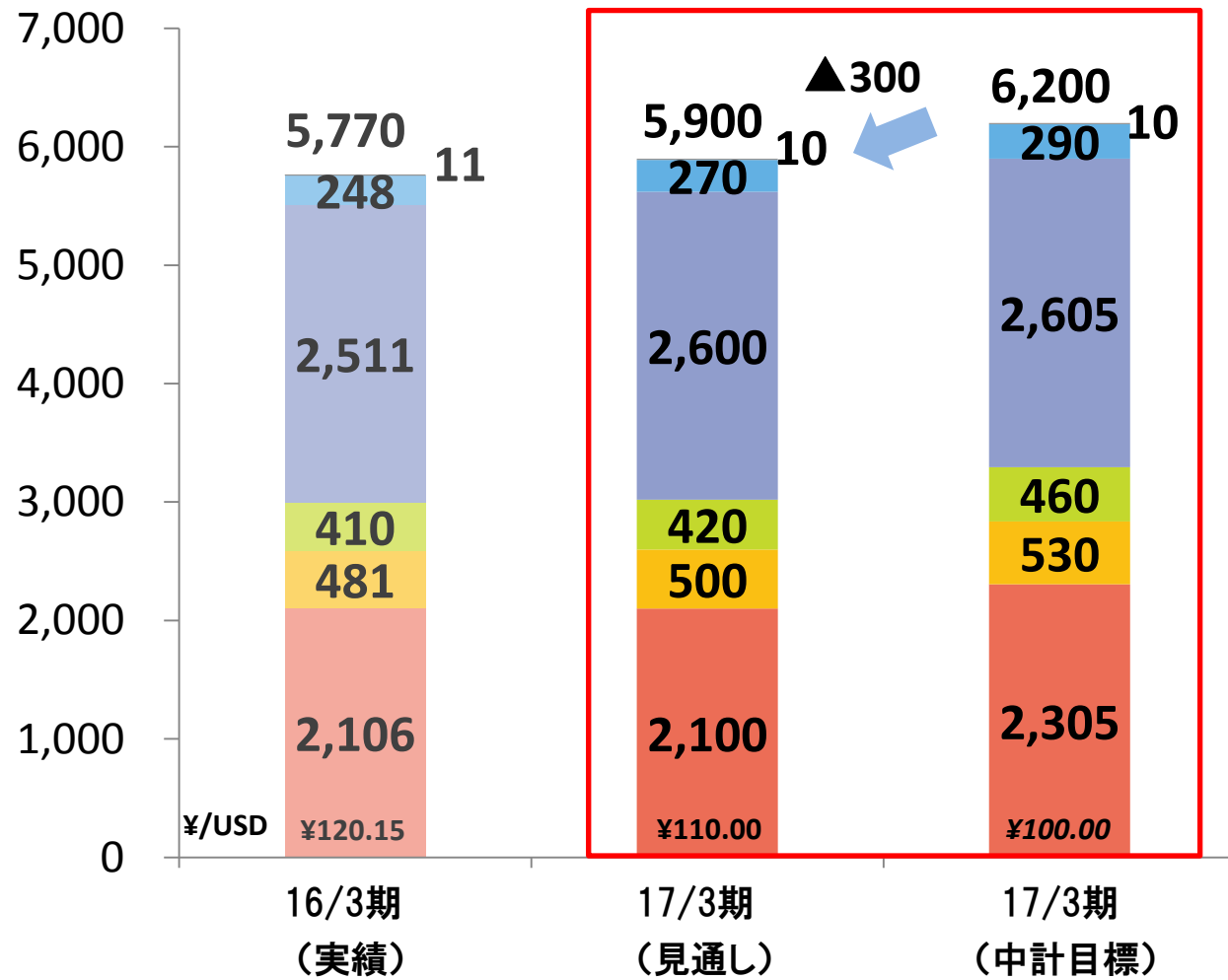
- 売上高
- 営業利益
- ◆ 経常利益
- 純利益



(注)16/3期の純利益は、有価証券売却益8億円を含む。

【売上高】

(億円)



17/3期
見通しと中計目標との差異

- ▲300
- その他 0
- 住環境 ▲20
- 合成樹脂 ▲5
- 生活産業 ▲40
- 化学品 ▲30
- 情報電子 ▲205

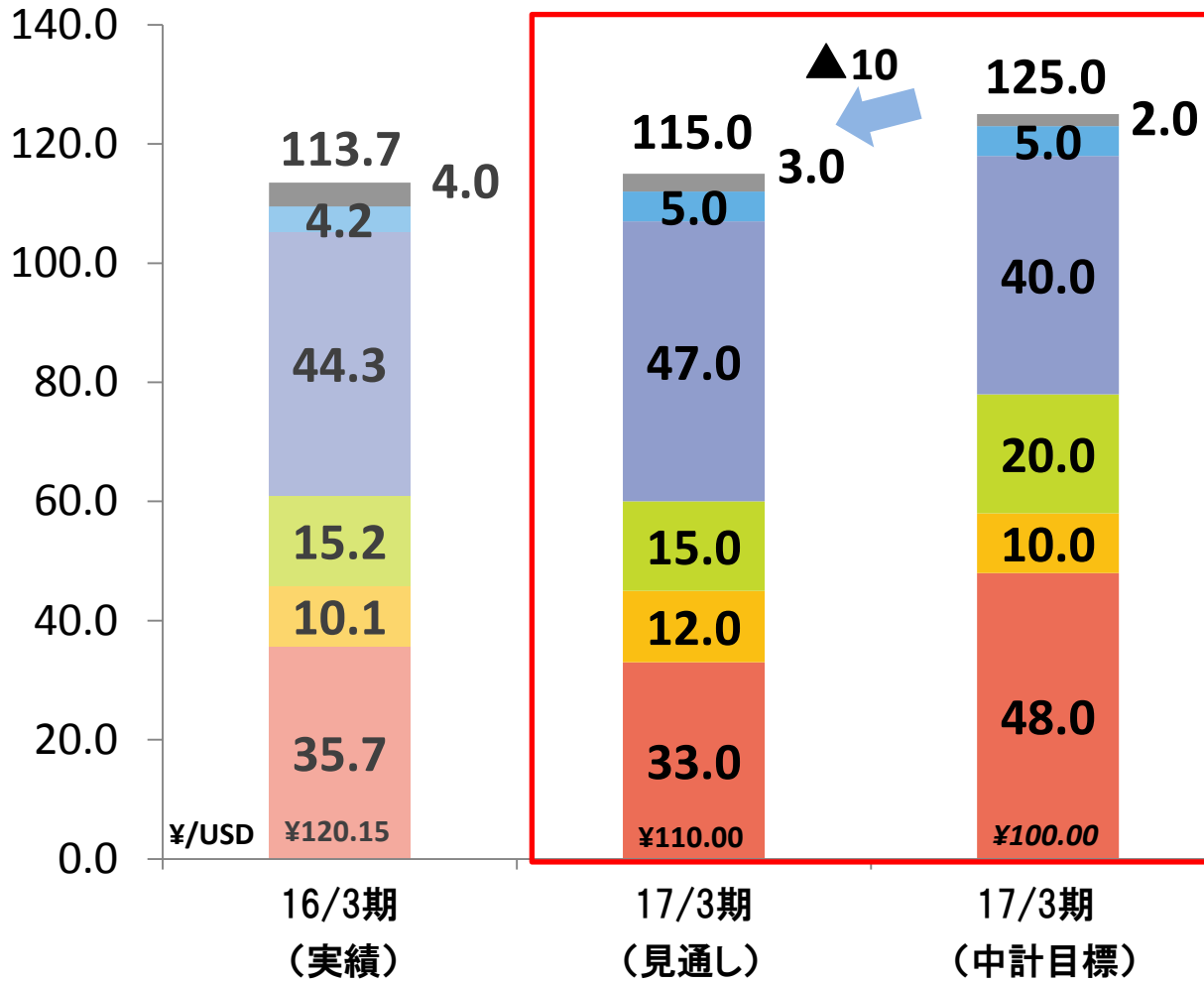
New Challenge2016

「New Challenge2016」最終年度 見通しと中計目標の差異 連結 営業利益



【営業利益】

(億円)



17/3期
見通しと中計目標との差異

- その他 + 1
- 住環境 0
- 合成樹脂 + 7
- 生活産業 ▲ 5
- 化学品 + 2
- 情報電子 ▲ 15

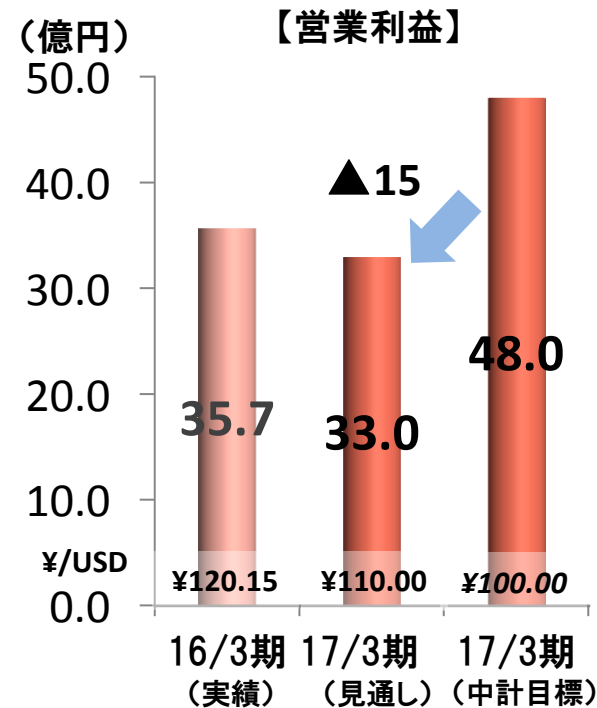
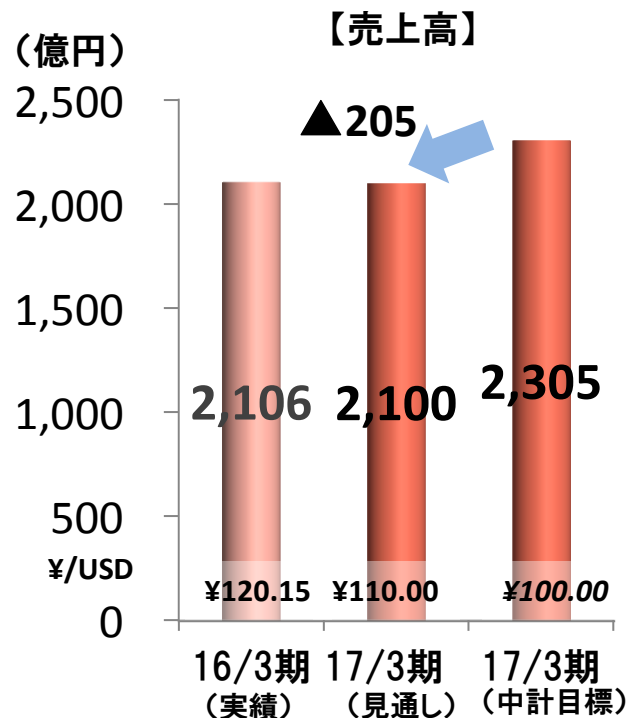
New Challenge2016

① 情報電子セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期見通しと中計目標の差異 売上高 ▲205億円 営業利益 ▲15億円

【主要要因】

- (+) 円安効果(売上高への影響額+62億円)
- (-) 液晶関連ビジネスの不調
- (-) 主要製品の単価下落



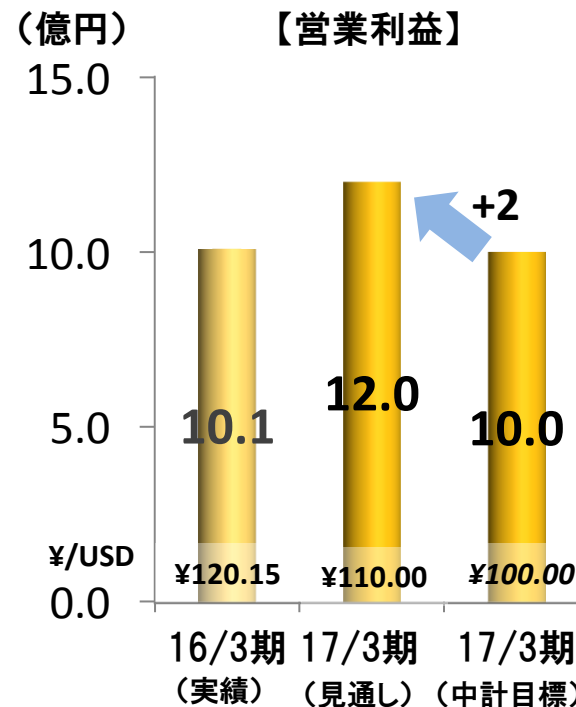
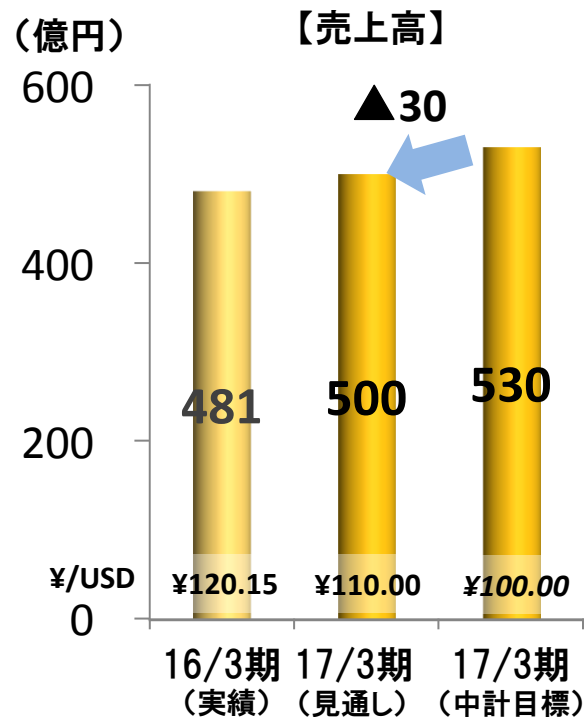
② 化学品セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期見通しと中計目標の差異 売上高 ▲30億円 営業利益 +2億円

【主な要因】

(+) 円安効果(売上高への影響額+8億円)

(+) 新規ビジネスが拡大

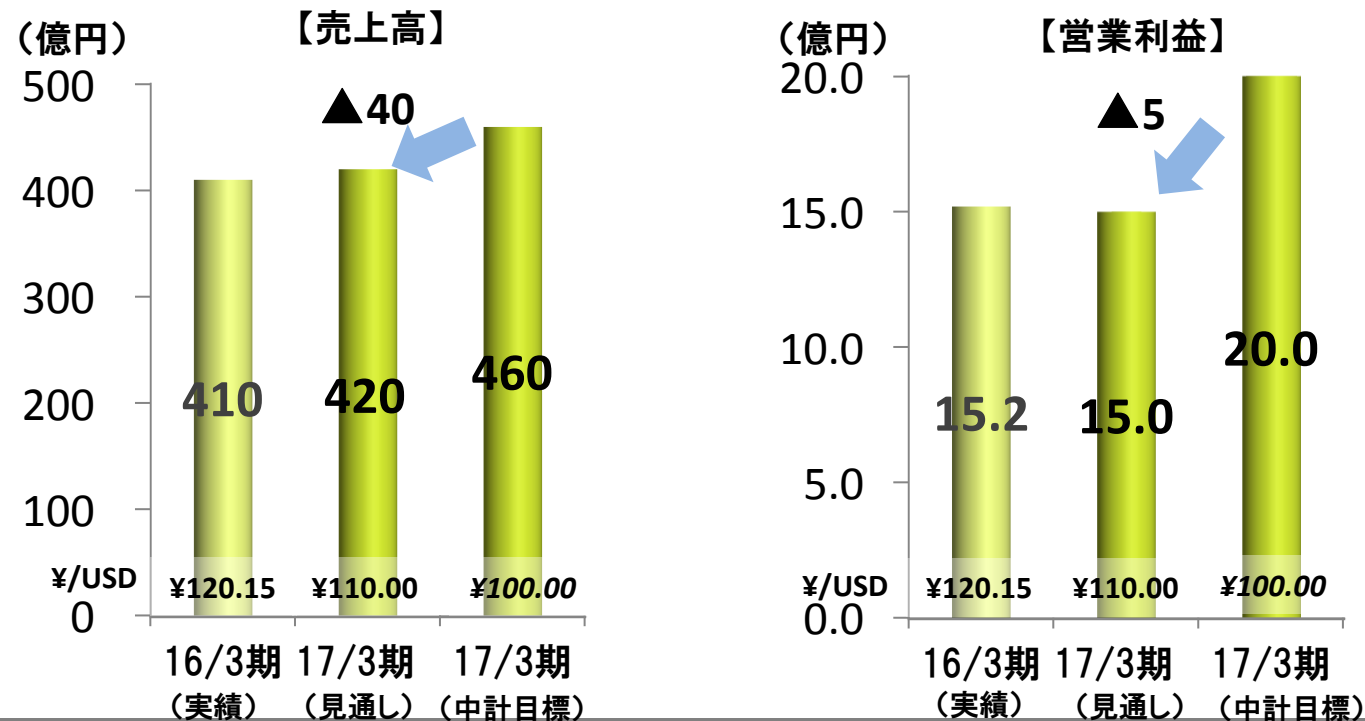


③ 生活産業セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期見通しと中計目標の差異 売上高 ▲40億円 営業利益 ▲5億円

【主要要因】

- (一) 医薬関連の伸び悩み(日本)
- (一) 医薬製造事業の不振(フランス)

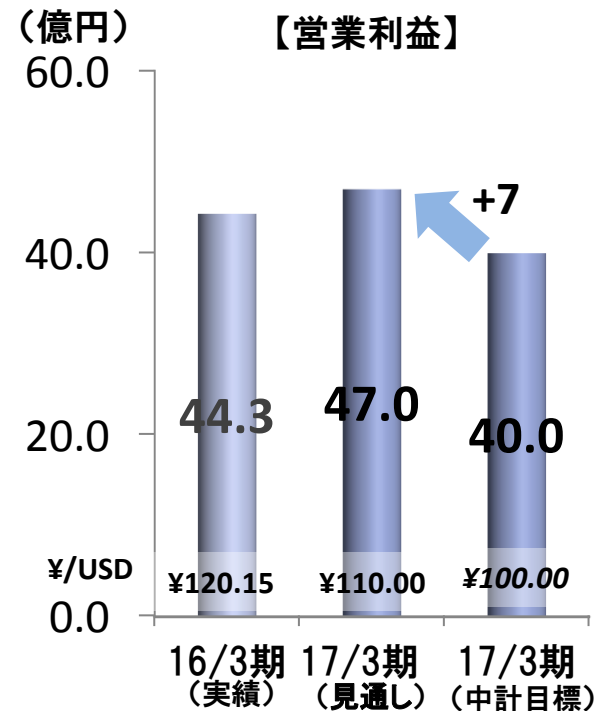
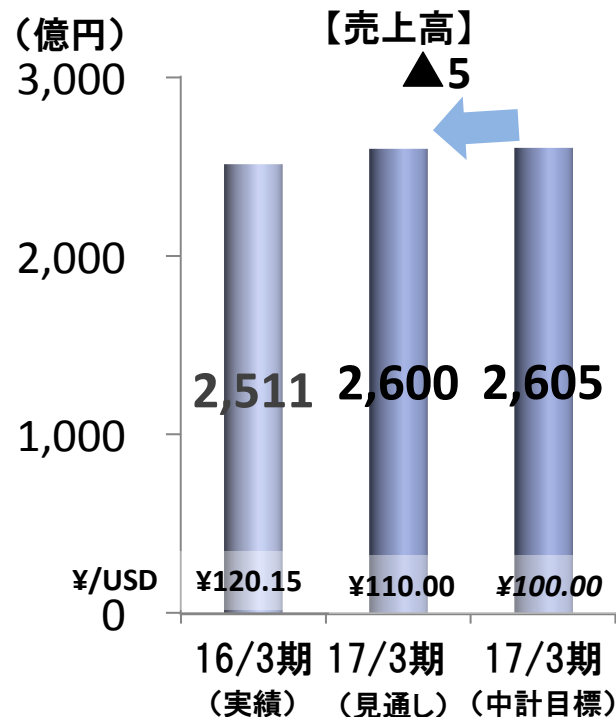


④ 合成樹脂セグメント 売上高・営業利益

■ 17/3期見通しと中計目標の差異 売上高 ▲5億円 営業利益 +7億円

【主な要因】

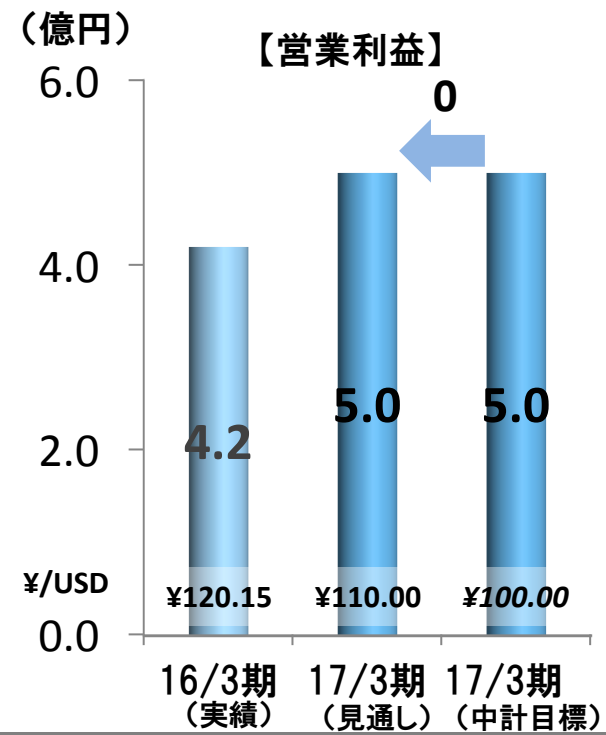
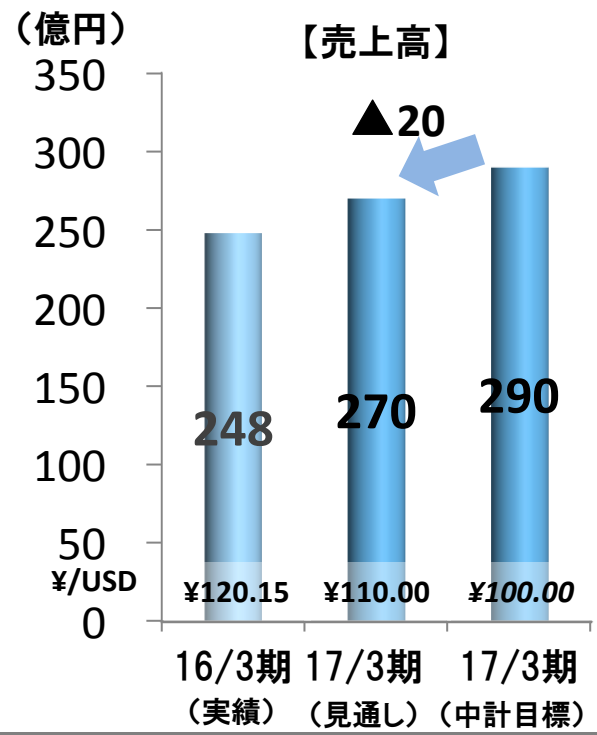
- (+) 円安効果(売上高への影響額+107億円)
- (+) 自動車関連の販売伸長
- (-) 原油安による単価の下落



⑤ 住環境セグメント 売上高・営業利益

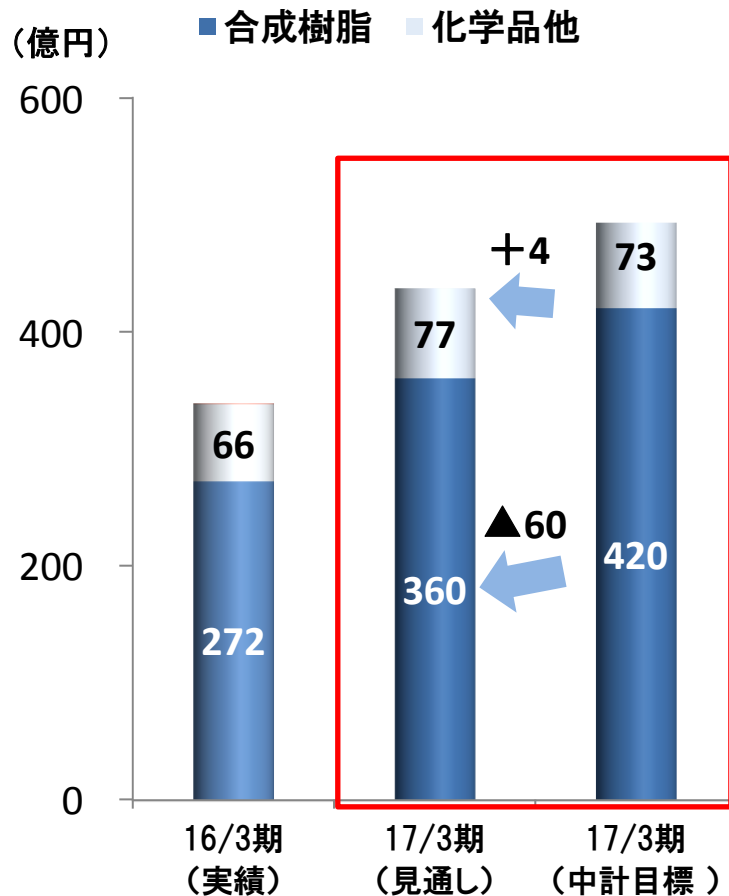
■ 17/3期見通しと中計目標の差異 売上高 ▲20億円 営業利益 0

計画は概ね順調



自動車分野への取り組み

◆ 主な自動車分野の売上高



■ 17/3期見通しと中計目標の差異

合成樹脂 ▲60 化学品他 +4

【主な要因】

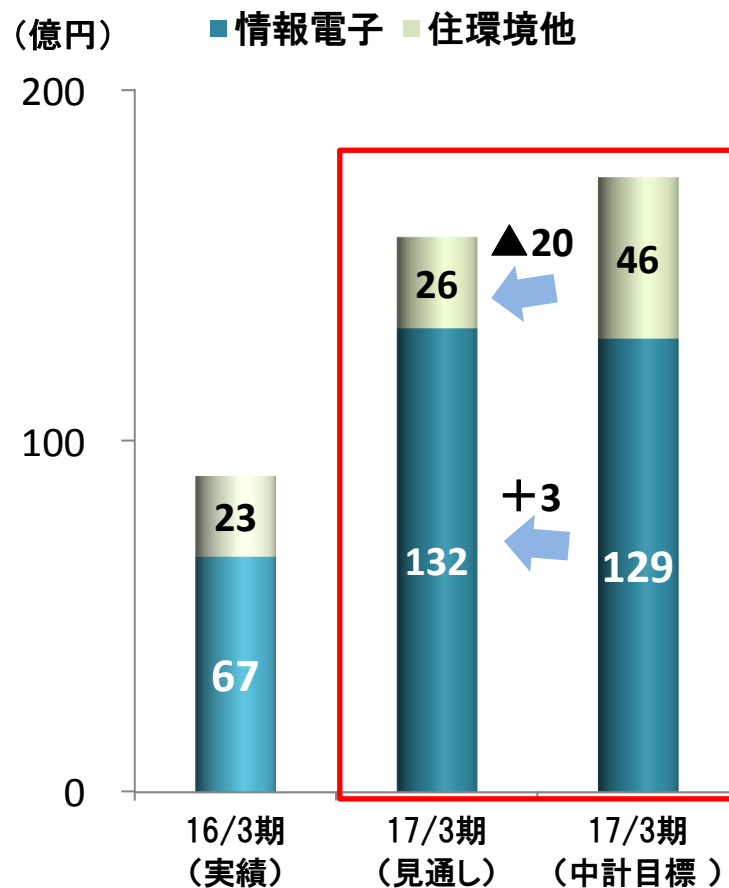
- (+) 中国での販売の伸長
- (-) 販売単価の下落
- (-) 東南アジア新興国経済の減速
- (-) メキシコ コンパウンド事業の遅れ

【17/3期 注力テーマ】

- ・ グローバル重点ユーザー(35社)への拡販
- ・ メキシコにおける拡販
- ・ EV/HV用原材料(化学品)

環境・エネルギー分野への取り組み

◆ 主な環境エネルギー分野の売上高



■ 17/3期見通しと中計目標の差異
情報電子 +3 住環境他 ▲20

【主な要因】

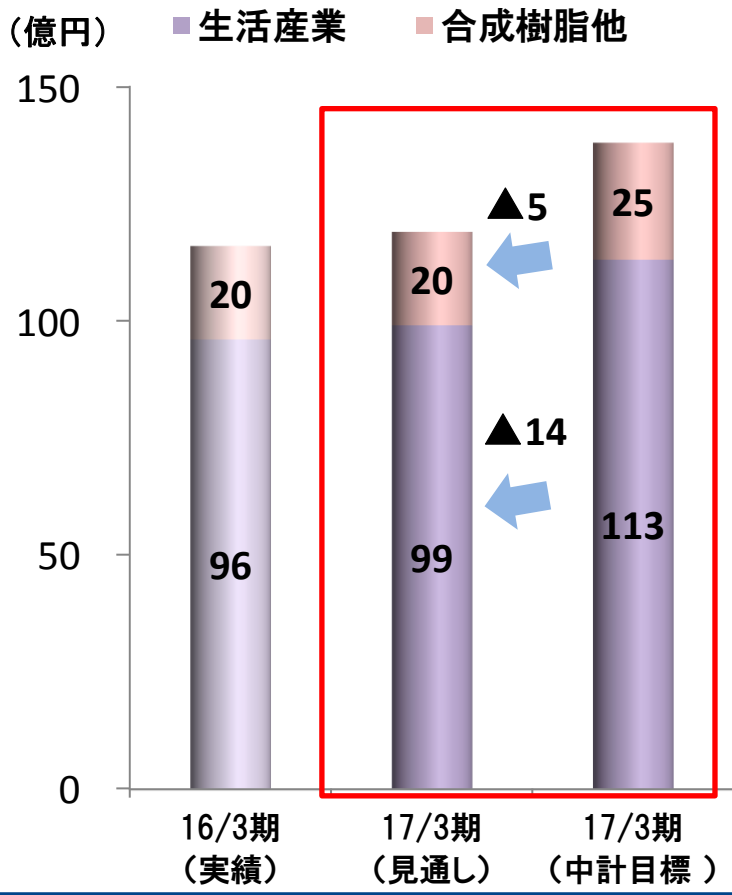
- (+) 欧米の太陽電池市場の活況
- (-) 発電用木質チップ販売の遅れ(住環境)

【17/3期 注力テーマ】

- 太陽電池関連材料(欧州拠点)
- LED用放熱材料

ライフサイエンス分野への取り組み

◆ 主なライフサイエンス分野の売上高



■ 17/3期見通しと中計目標の差異
生活産業 ▲14 合成樹脂他 ▲5

【主な要因】

- (一) 医薬関連ビジネスの伸び悩み
- (一) フランス医薬製造子会社の不振

【17/3期 注力テーマ】

- ・ ジェネリック医薬関連
- ・ フランス医薬製造子会社の立て直し
- ・ 再生医療分野

※ 売上高は主なライフサイエンス分野の単純合算値。

・ アジア以外の新興国への取り組みの拡大

メキシコの日系初のエンプラ・コンパウンド製造拠点(自動車向け)

2013年11月に稼働開始、2014年9月より量産を開始
自動車向けのため、
試作から量産まで時間がかかり、立ち上がりが遅れる
2016年3月期 販売実績 2,470トン



⇒ 試作案件の採用が進み、今後、着実に業績の拡大を見込む
2017年3月期 年9,000トンの販売を計画
生産能力増強を計画 年15,000トンへ



会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
生産能力 : 10,200トン/年
所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ

・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

フィリピンの樹脂コンパウンド製造拠点(OA向け)

2014年7月より商業生産を開始

2015年モデルのプリンターに採用され量産化スタート

顧客の生産移管の遅れや、新興国経済減速の影響もあり
立ち上がりが遅れる

2016年3月期 販売実績 3,240トン



⇒ 新規ビジネス獲得により、年間生産数量8,000トンを目指す



会社名	: IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力	: 10,800トン/年
所在地	: フィリピン ラグナ州

中計3年間の投資枠を100億円に設定

2年間の投資実績累計 78億円（～2016年3月期）

【主な投資案件】

インドネシア合成樹脂設備・土地	12.3億円
コンパウンド事業関連	10.9億円
インフレ事業関連	7.4億円

ガバナンス強化に向けて、以下の施策を実施

1. 指名・報酬委員会(任意)の設置

経営幹部の選任、取締役・監査役候補の指名、
取締役の報酬決定にあたり、客観性、公正性、透明性を確保

- ・現構成員： 社内取締役 1名(議長)、独立社外取締役 2名
- ・2016年3月期 開催実績 2回

2. 取締役会評価(自己評価)の実施

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

- ・2015年11月 全取締役・監査役にアンケート形式で実施
- ・2016年1月 分析・評価結果を書面で開示

＝課題と対応＝

- ① 取締役会における中長期的な課題に対する議論が少ない
⇒ 取締役会の上程基準の見直しを実施
- ② 資本市場との対話の取締役会へのフィードバックが不足
⇒ 取締役会への投資家・株主の意見や懸念の報告をルール化

利益還元の方針

総還元性向 30～35%目安

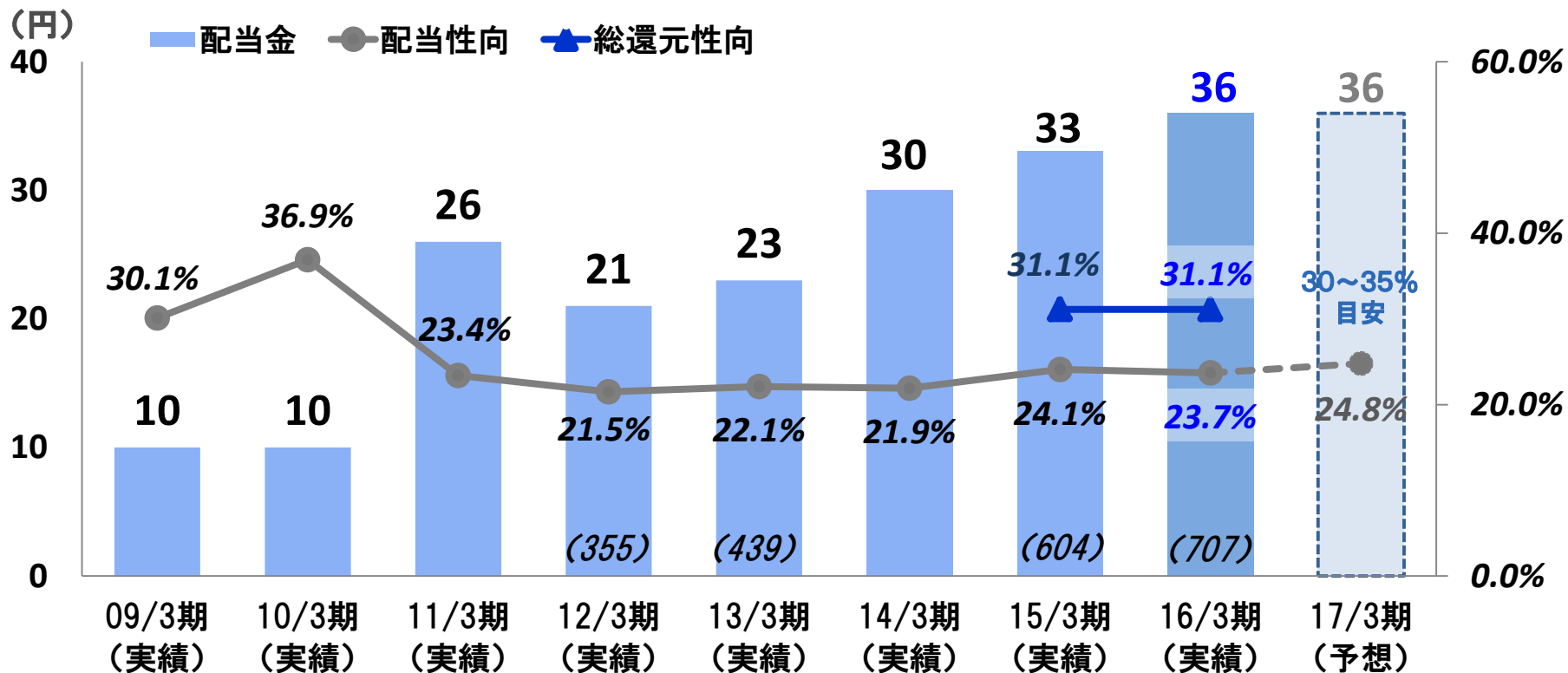
2016年3月期

1株当たり配当金	:	36円
自己株式取得額	:	707百万円
総還元性向	:	31.1%

2017年3月期

1株当たり配当金	:	36円(予想)
----------	---	---------

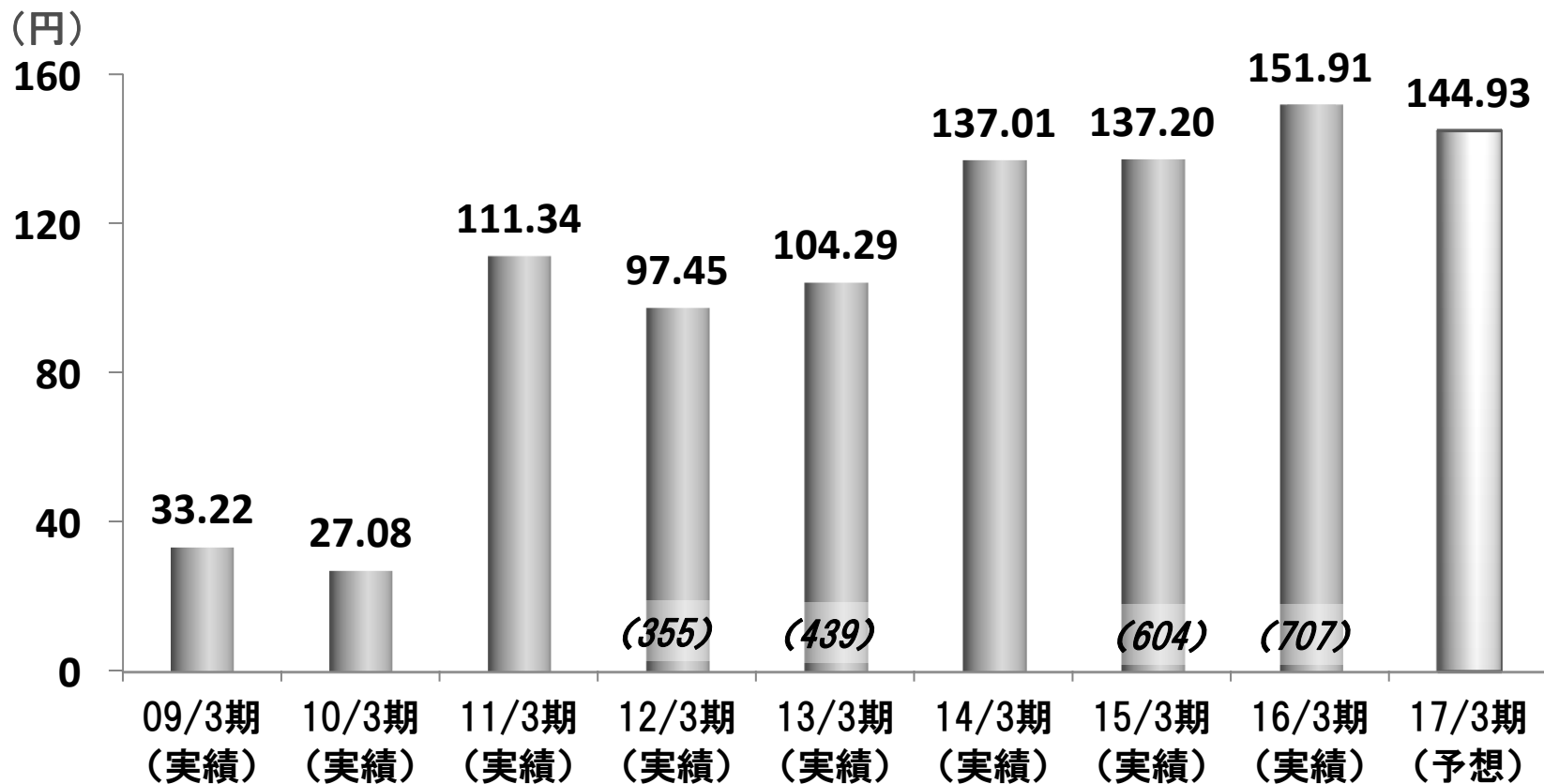
1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移



(注)棒グラフ下部のカッコ()内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

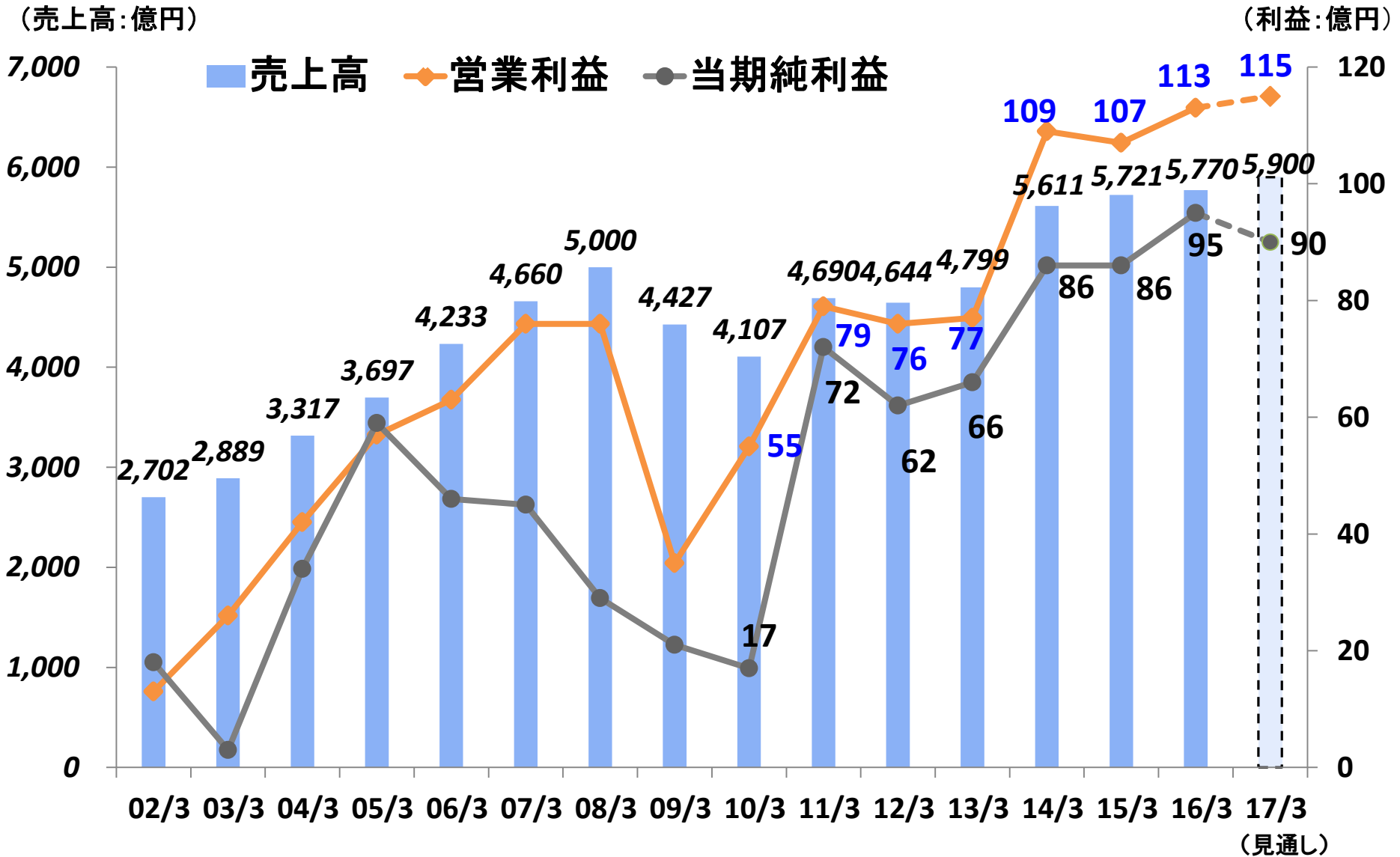
(注)11/3期は、創業120周年の記念配当2円を含みます。

1株当たりの当期純利益推移(EPS)



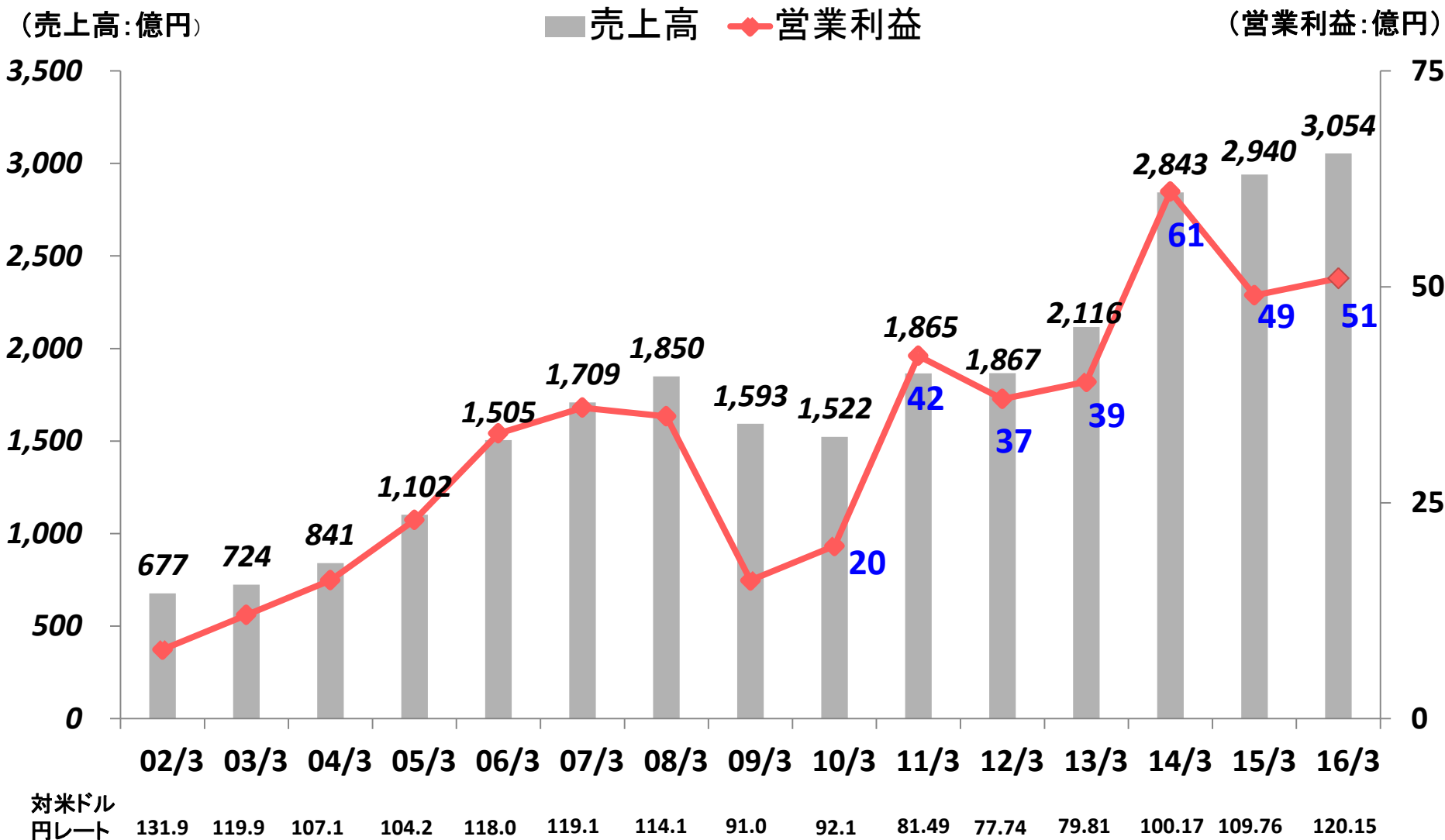
(注)棒グラフ下部のカッコ()内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

(参考)
過去15年の連結業績の推移



(参考)

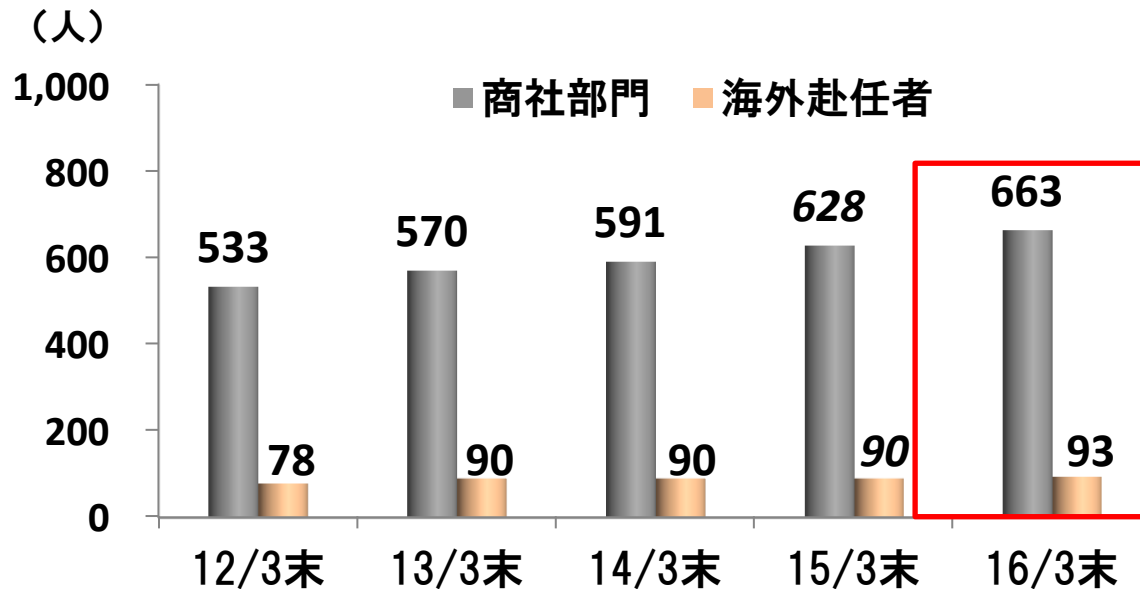
過去15年の海外の売上高と営業利益の推移



人員の充実と共に、質的な面での強化、育成を加速

- ✓ 日本を含めたナショナルスタッフ同士の交流促進
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
2016年5月24日、25日に東京で開催

海外の商社部門人員と海外赴任者数の推移



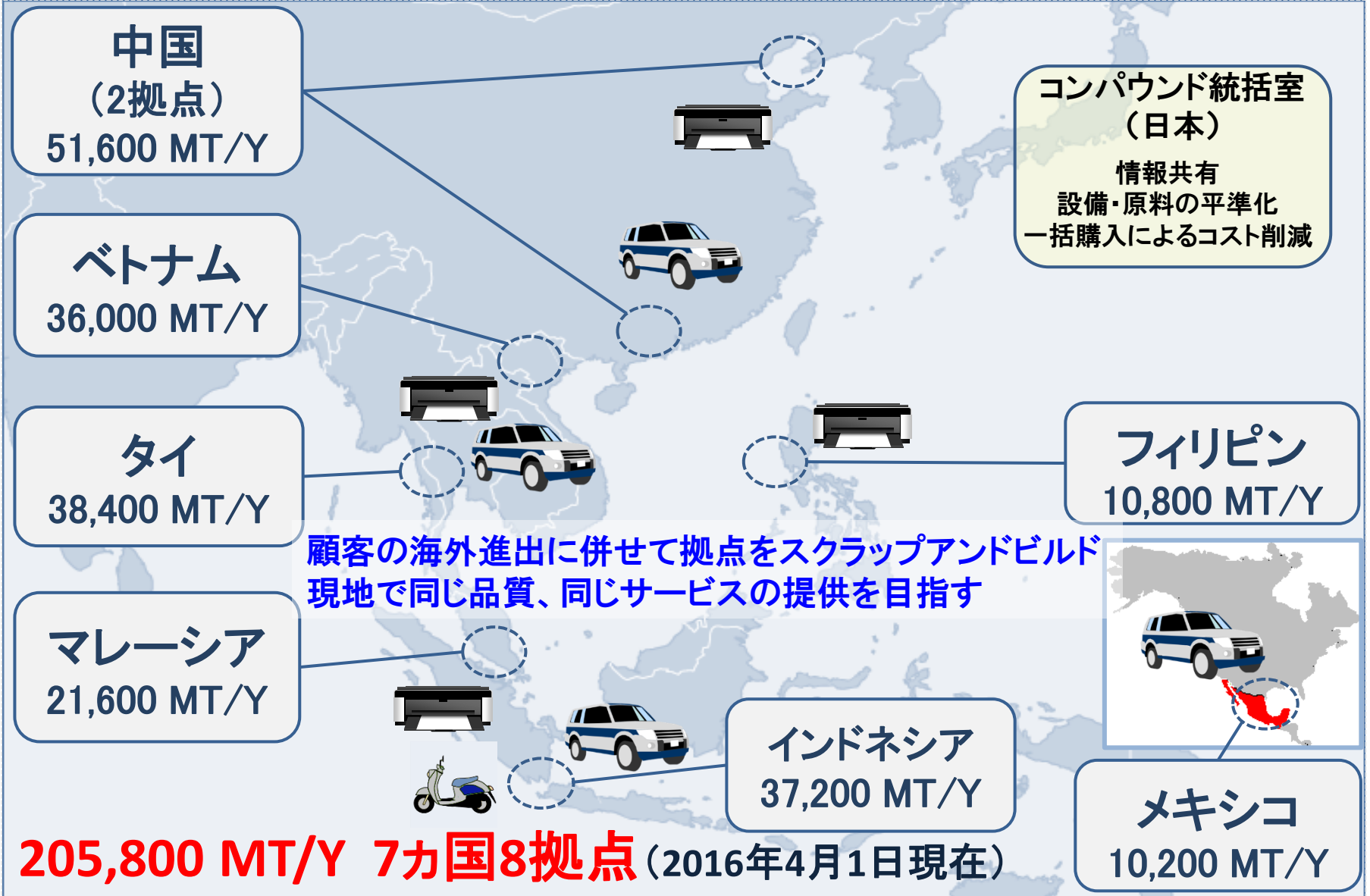
(注)各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数



【稲畑マレーシア(JB)の社員と本社役員】

(参考)

樹脂コンパウンドの年間生産能力(ワールドワイド)



会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場 一丁目15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋 本町二丁目8番2号
従業員数	606名〔連結3,509名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	4,615名
大株主の状 況(持株比率 上位3株主と 持株比率)	住友化学株式会社 22.2% 日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口) 6.5 % JP MORGAN CHASE BANK 380684 4.8%

(注)当社保有の自己株式数(1,209,948株)については、持ち株比率の計算から除外しています。

(2016年3月31日現在)

□ IRに関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 IR企画部

TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410

E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。